

## わたしと憲法・9条 No34

### 「新憲法1期生として」

勤医協中央病院名誉院長・元道議 大橋 晃



私が生まれた1940年(昭和15年)は紀元2600年の式典が行なわれ、戦争の泥沼へとひた走っていた時代でした。中国での敗戦そして引き揚げと、子供ながらにいろいろな苦勞をなめました。小学校に入学したのが1947年(昭和22年)、新憲法が施行された年でした。その意味で私は誇りを持って自らを、「新憲法1期生」と呼んでいます。当時は、十分な食べものもなく、いつも空腹でしたが、大人たちにもそして私達子供にも、将来への希望が今より大きかったように思います。

憲法の精神は、「(憲法の)理想の実現は、教育の力にまつべき」として、教育基本法に基づく学校教育を通して、私達の中に育まれたと思います。中学3年の担任M先生には、「一人ではなくみんなで何かをすることの喜び」を徹底的に教えられました。

50余年を経た今も毎年クラス会をやって交流が続いています。先生は東区の中学校長に就任して間もなく難病で亡くなりましたが、校長室には憲法前文を掲げていたとのこと。昨年のクラス会では、地域の「9条の会」を熱心に行っておられる80歳を過ぎた奥さんが参加され、憲法や原発問題で話が弾みました。教育基本法は残念ながら改悪されましたが、憲法改悪を許さず、子や孫の世代にしっかり根付かせるために、1期生としての責任を痛感しています。



思い思いの横断幕やゼッケンを持ち寄った参加者。子どもたちの表情が明るかった！

この日は全国的に集会が行われましたが、札幌では北海道実行委員会主催の集会が大通公園西8丁目広場で10時から行われ会場は2500人の人々で溢れました。集会は「東日本大震災・福島原発事故から1年、早期復興！なくそう原発！許すな再稼働！3・11北海道集会」をテーマに掲げ、脱原発と被災地の早期復興を訴えました。集会のはじめに東日本大震災で亡くなられた方々への黙祷が行われたあと、呼びかけ人の小野有五氏(北大名誉教授)、西尾正道氏(道ガンセンター院長)、麻田信二氏(道生協会理事長)から発言がありました。西尾氏からは北海道

3・11さようなら原発一〇〇万人アクション北海道に2500人  
泊原発の廃炉をめざし、北海道実行委員会に80団体が加盟

## 2012年度高校前宣伝日程 次の世代へ 平和のバトンを！

新婦人札幌東支部と共同で行われる高校前宣伝が下記のように決まりました。次の世代へ平和のバトンが渡せるよう多くの方の参加をお願いします。

- 4/17 (火) 3:30~東豊高校
- 5/15 (火) 3:15~東陵高校
- 6/19 (火) 3:35~丘珠高校
- 7/10 (火) 3:15~北斗高校
- 8/21 (火) 3:30~開成高校
- 9/18 (火) 3:10~光星高校
- 10/9 (火) 3:10~大谷高校



熱く語る齊藤弁護士(奥中央)の話に熱心に聴く草の根の代表

でガン死亡率が一番高いのが泊、二番が岩内であるが、泊原発の影響を考える必要がある。原発を「必要悪」とする意見もあるが、北海道には代替の自然エネルギーがいくらでもあり、原発に固執する必要はないとの話がありました。また、泊原発から39kmにある喜茂別町の酪農家齊藤愛三氏は泊に原発があることの危険性を訴えました。

### 比例定数削減阻止と 民意が届く政治の実現を 一体のものとして！

#### ―東区草の根9条の会懇談会―

3月24日、4回目となる同懇談会が開催され、諸行事が重なる中で12名が参加しました。一部の学習講演では北海道憲法会議の齊藤耕弁護士が、「憲法をめぐる課題―衆議院比例定数削減を中心に」と題して詳細なレジメと資料を基に、約1時間講演しました。氏はまず比例定数削減のねらいが民意を削るものであるとともに、小選挙区導入以来18年、構造改革・改憲路線の政治が政権交代後も回帰・継続し、深化

### 住民の過半数をめざし、 地域での対話を重視！

二部の懇談・交流では、7つの会から活動状況や悩みなどの発言がありました。主な発言は以下の通りです。「ニュースだけは毎月出し、8、9名で配布している。地域からの反応がうれしい」「今は事務局長が病気でニュースが出せない。みなさんの活動を学びたく、参加している」「毎月9の日の地域での9条署名は、1618筆・925軒となり、毎月のニュース配布は厳しい。今後は3ヶ月に1回の全戸配布を考えている」「宣伝署名は毎月の街頭、3ヶ月に1回の地域、高校前をかわせて行っている」など交流を深めました。